

平成 26 年度医学部看護学科・看護学専攻自己点検評価書（2015.7）

項 目	取組内容（成果、課題など）	根拠資料
基準 4 学生の受入 4-1 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、それに沿って、適切な学生の受入が実施されていること。 4-2 実入学者数が入学定員と比較して適正な数となっていること。	入学者選抜の改善に繋がった取組 ○医学部看護学科ではアドミッションポリシーを統一し、前期日程以外の入試すべてに面接試験を導入した。また、大学院看護学専攻においても面接を重視し、一定基準を満たした人物を入学させる目的で、欠格事項を設けて入試を実施している。 ○看護学科の平成 26 年度・平成 27 年度の入学者数は、80 名の定員の 1.0 倍（編入学の定員 10 名を除く）となっており適切であった。編入学では平成 26 年度に 4 年ぶりに学生 1 名を受け入れたが、平成 27 年度の入学者はなく、今後の課題である。看護学専攻においては、平成 26 年度は 8 名定員の 0.25 倍であった。広報活動にも力を入れ、平成 27 年度入試においては 9 名（1.1 倍）の入学者数を確保している。	看護学科アドミッションポリシー（資料 1-1） 看護学専攻アドミッションポリシー（資料 1-2） 入試における面接点の比重（資料 2） 入学定員充足率（資料 3）
基準 5 教育内容及び方法 5-2 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。（学士課程） 5-5 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等（研究・論文指導を含む。）が整備されていること。（大学院課程）	単位の実質化を図るための取組 ○基礎看護技術教育において、附属病院の看護師を基礎看護技術（演習科目）のゲストティーチャーとして複数名参加してもらい、より実践的な看護技術演習を実施した。 ○各分野における看護学演習科目においては、問題解決能力（患者の抱える問題を解決する力）の基礎を養うためにグループワークを積極的に取り入れた。 ○看護学専攻の院生は、英語論文の読解力が弱く、英語論文に触れない傾向が明らかになった。平成 27 年度からは新たな英語担当教員とともに改善策をとっている。	ゲストティーチャー参加型授業の概要（資料 4） 大学院教育の見直し第 2 次調査結果（資料 5）

基準6 学習成果 6－1 教育の目的や養成しようとする人材像に照らして、学生が身に付けるべき知識・技能・態度等について、学習成果が上がっていること。 6－2 卒業（修了）後の進路状況等から判断して、学習成果が上がっていること。	学習成果の向上に繋がった取組 学部生 ○実習や体験に基づいた学習を重視する取り組みから、平成 26 年度は以下の内容からも、学習成果が示されている。 ・平成 26 年度国家試験の合格率は、看護師、保健師、助産師ともに 100%で全国平均を上回った。 ・付属病院に就職した卒業生を対象に行ったアンケート結果では、8 割以上の卒業生が専門教育の内容が就職して役に立ったと回答しており、9 割が周囲に看護学科の受験を勧めると回答していた。また、1 割は進学や専門教育によるさらなるキャリアアップを考えていた。そして、教養教育や語学教育は半数以上が役に立たなかったと回答していたため、特に語学教育において改善策をとっている。 ・卒業生の 5 割が附属病院を含む岐阜県内に就職し、助産師免許取得のために進学した学生は 5 名であった。 大学院生 ○修了生が大学院における研究成果を平成 26 年度に学会発表した件数は 5 件あり、投稿論文数は 7 件であった。	国家試験合格状況（資料 6） 在学中の学習成果調査（資料 7）
基準8 教育の内部質保証システム 8－1 教育の状況について点検・評価し、その結果に基づいて教育の質の改善・向上を図るための体制が整備され、機能していること。 8－2 教員、教育支援者及び教育補助者に対する研修等、教育の質の改善・向上を図るための取組が適切に行われ、機能していること。	教育の質の改善に繋がる取組 ○授業終了時に学生による授業評価を実施し、その結果やリフレクションペーパーを活用して、授業の問題点や工夫を全教員で共有した。 ○話し方に関する FD と授業評価の活用に関する FD を開催した。 ○教員に対して「学生の学習に対する自立と責任を持つ態度」の育成に関する調査を実施し、多くの教員が学習に対して自立と責任を持つ態度を有していない学生が多いと捉えていることが分かった。 ○実習協議会において、実習施設の指導者に看護学科の現状と育成する学生像を伝え、実習開始前と終了後に会議を行い、連携した実習指導が行えるようにした。 ○平成 24 年度カリキュラムを見直し、助産師教育と保健師教育において看護師教育の科目と読み替えをしていた部分を見直し、最小限にして文部科学省に変更申請を行った。	H26 授業評価結果（資料 8） H.26 リフレクション結果（資料 9） FD 開催内容（資料 10） 学生の学習に対する自立と責任を持つ態度の調査結果（資料 11）